



PORSCHE

7. Feb. 2018

Vol.11/18

ポルシェは2022年までにE-モビリティに
60億ユーロを超える投資を計画

将来に対する投資の倍増 – プロダクトレンジの広範な電化

ポルシェ AG (本社：ドイツ、シュトゥットガルト 社長：オリバー・ブルーム) は、未来に向けて前例のない開発計画を立てています。すなわち、プラグインハイブリッドと純粋な電気自動車の両方に重点を置きながら 2022 年までに E-モビリティに 60 億ユーロを超える投資を行います。ポルシェ AG 監査役会の直近の会議において、この決定がなされました。「当社は E-モビリティに対する支出を 30 億ユーロから 60 億ユーロ以上に倍増します。今回の決定によって、エンジン搭載モデルの開発と並行して、将来のために重要な進路を設定します」とポルシェ AG 社長のオリバー・ブルームは説明します。有形資産に対する 30 億ユーロの投資と開発費用に対する 30 億ユーロを超える投資によって、計画は大幅に強化されます。

30 億ユーロの追加額の内訳は、5 億ユーロがミッション E とその派生モデルの開発、10 億ユーロが既存のプロダクトレンジの電化およびハイブリッド化、数億ユーロが拠点の拡張、そして 7 億ユーロが新しいテクノロジー、充電インフラおよびスマートモビリティへの投資です。

ツッフェンハウゼンでは、新設の塗装工場、専用の組み立てエリア、塗装済みボディとドライブユニットを最終組み立てエリアまで運ぶためのコンベアブリッジを現在建設中です。既存のエンジン工場はエレクトリックドライブを製造するために拡張されており、車体工場も拡張予定です。ヴァイザッハ開発センターへの投資も行われます。ミッション E プロジェクトは、約 1200 の新しい雇用を創出しています。

純粋な電気自動車のミッション E スポーツカーは、最高出力 600PS を発生し、0-100km/h 加速は 3.5 秒以下でこなします。加速と制動を反復しても性能を損なうことがなく、航続距離は 500km (NEDC) におよびます。充電時間も非常に短く、800V のシステム電圧を採用することによって、わずか 15 分の充電で 400km を走行することができます。

広範囲の急速充電インフラ

BMW グループ、ダイムラー AG、およびフォード・モーター・カンパニーによる合併事業であるイオニティにおいて、ポルシェは、アウディとともにフォルクスワーゲングループを代表します。この合併事業の目的は、2020 年までに欧州の主な交通路に 400 ヶ所の急速充電ステーションを建設・運営することにあります。すでに 2017 年から建設が始まっています。イオニティの事業を補完するために、ポルシェの販売ネットワークも全国的な急速充電インフラの拠点になります。

ポルシェにおいて急速な成功を収めるプラグインハイブリッド

ニューパナメーラの発売とともに、第 3 世代ポルシェ プラグインハイブリッドドライブを備えた 2 つ

のバージョンが加わりました。両バージョンともに電気駆動のみによる約 50km の航続距離を備えます。フラグシップモデルであるパナメーラ ターボ S E-ハイブリッドは、4 リッターV8 エンジンと電気モーターが680PSのシステム最高出力を発生し、卓越した性能と最高の効率性を見事に両立させます。このモデルは、ハイブリッドドライブシステムの採用によりラグジュアリーセグメントで最もスポーティな車です。

ハイブリッドモデルに対してはお客様からも大変ご好評をいただいております。市場発売以来、欧州で販売されたパナメーラ モデル全車両の約 60%がこの最新ドライブを搭載しました。この数字はスカンジナビア地方で特に高く、約 90%に達しています。

＜本件に関する読者からのお問い合わせ先＞
ポルシェ カスタマーケアセンター 0120-846-911
ポルシェ ホームページ <http://www.porsche.com/japan/>